



安心の地域医療を支える

# JCHO NEWS



**【特集】**

**病院機能評価受審促進!!**

02 病院長フォーラム

03 TOPメッセージ

04 新任特任補佐・院長メッセージ

06 特集  
病院長機能評価受審促進に向けて

08 トピックス  
職場チームによる業務改善の取組みに係る表彰

09 トピックス  
新任院長研修

10 トピックス  
熊本総合病院増築棟竣工

11 トピックス  
航空機離発着訓練

12 JCHO GROUP  
施設一覧

次回予告  
JCHO仙台病院が「宮城大学と包括連携協定」を結びました！

## 病院長フォーラム

### 病院の三役が集合しました



病院長集合



看護部長集合



事務部長集合



JCHO仙台病院:業務改善の表彰式



東北大学医学部訪問:  
右から仙台病院 村上栄一院長、  
仙台南病院 朝倉徹院長、  
東北大学 八重樫伸生医学部長、  
山本理事長、楠理事



仙台南病院:看護部の皆さんと



北里大学病院長訪問:  
相模野病院 今泉弘院長、  
北里大学 高相晶士病院長、  
山本理事長、内野顧問



北里大学理事長訪問:  
相模野病院 今泉弘院長、  
北里大学 小林弘祐理事長、  
山本理事長、内野顧問

## TOPメッセージ



### 虫の目、鳥の目 山本 修一

今号から、巻頭言として本部理事が一言ご挨拶させていただきます。JCHO全体の動きや目指すところを共有し、みなさんとの距離感が縮まり、JCHO27000人のパワーの結集につながっていく一助になればと思っています。「地域から信頼され続ける」ことが私たちJCHO病院の使命です。そのためには「良質な医療の提供と健全な経営のバランス」を確保することが、何より重要であると考えています。

そこで欠かせないのが「虫の目と鳥の目」なのです。

目の前の現実的に的確に対処する虫の目を持つと同時に、広く先まで全体を見渡す鳥の目を持っていないと、現状の忙しさに埋没してしまいます。虫の目が日々の診療業務、鳥の目が病院の将来像とも言えます。この二つの目線を病院の全員が持って医療と経営を変えていくことが、強い病院になる秘訣だと思います。

しかし一方で、人はみな「目の前バイアス」を持っています。目先のことが最優先になり、先のことを忘れてしまうのです。それゆえ、鳥の目を持つのは容易ではありません。日々の確な医療を提供する一方で、目線を上げて、社会状況(人口減少・高齢化社会)、地域状況(自分の所属する病院がおかれた環境)、病院の風土・イメージ、大学医局との関係などを見渡してみてください。それぞれの要素が今後10年でどう変わっていくのか。10年後の環境を見通しながら、何を変わらせないといけないのか、どんな準備をしていかないといけないのか。日々のあり方を時間的・空間的視点を入れて改善・改革していくことが大切です。

コロナ後の医療環境の激変に対応すべく、ぜひみなさんの知恵で病院の未来を拓いていきましょう。

虫の目  
深く詳しく  
見る目

鳥の目  
全体を  
見る目

### Shu's Room

現場のみなさんとの対話を始めました。これから1年以上かけて全病院の若手職員と対話していきますぜひみなさんのご意見をお聞かせください！



東京蒲田医療センター

うつのみや病院

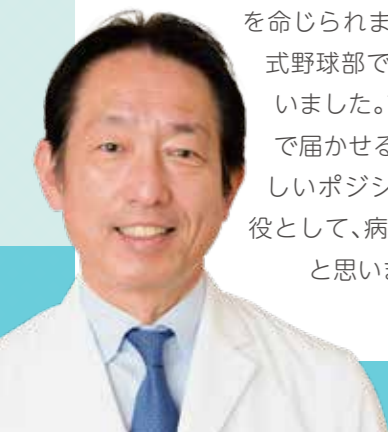
東京新宿メディカルセンター

# 《 新任特任補佐・ 院長メッセージ 》

## 役職は‘地位’ではない、 役割’である

理事長特任補佐 せきね のぶお  
(東京新宿メディカルセンター) **関根 信夫**

自院職員に、そして自分自身にも再三言い聞かせている言葉があります。『役職は‘地位’ではない、‘役割’である』この度、理事長特任補佐を仰せつかり、理事長からは‘遊撃隊’(?)としての役割を命じられました。私は大学時代、準硬式野球部でショート(遊撃)を守っていました。フットワーク軽く、遠くまで届かせる肩の強さが要求される忙しいポジションです。理事長の補佐役として、病院支援に力を尽くしたいと思います。



## 健康管理センターを新築し、 快適な環境整備へ

こいけ まさひこ  
札幌北辰病院 **小池 雅彦**

この度、JCHO札幌北辰病院の院長に就任いたしました小池雅彦です。  
1983年に北海道大学医学部を卒業後、北大第一外科に入局し、外科医一筋40年間が経過しました。この間いくつかの病院を経験しましたが、32年前に2年間お世話になった札幌北辰病院の院長に就任するというのは不思議な縁です。院長となり、その責任の重さを感じる毎日ですが、地域から信頼される病院になるよう努力してまいります。



## 新病院開院を見据えて さらなる医療の質と 機能の充実を

おかずみ しんいち  
千葉病院 **岡住 慎一**

本年2月1日に院長に着任いたしました。現在、来春の新病院の開院に向けて建築工事を進めています。当院は50余年にわたり地域医療に取り組み、新病院においても健診・透析センターを拡大し、さらなる発展を計画しております。運営にあたっては①医療安全と継続的な医療の質改善、②楽しく誇りを持って働ける職場環境醸成、③研修・教育体制の充実の方向性のもと、さらに進めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



## 一人ひとりがチームの一員 となり主体的に動く病院を

わたなべ まさし  
東京蒲田医療センター **渡邊 正志**

2023年4月よりJCHO東京蒲田医療センターの院長を拝命しました渡邊正志です。JCHOのトップの方々が「経営だけでなく、患者安全や医療の質も大切だ」と考えていてくれることは私にとって大きな励みになります。当院の多職種チーム「アナフィラキシー対応チーム」、「患者さん参加要請チーム」、ともに日本1を目指します。病院経営に対しても真摯に取り組みますので、ご指導のほどよろしくお願ひします。



## 地域に貢献する 医療を目指して

かわた のぞむ  
横浜中央病院 **川田 望**

4月からJCHO横浜中央病院院長に就任した川田望です。卒業から約40年間日本大学で泌尿器科医として日々務めてまいりました。これからは地域住民の多様なニーズにこたえ、地域住民の生活を支えるため皆様の立場に立った医療を提供し、今後も「温かい心と気配りの医療」を基本理念に皆様の役に立ちたいと考えています。そして今後も変わらぬ姿勢で、進む高齢化社会に対処して皆様と共に明るい未来を創っていきたいと思います。



## 末永く健康で 生き生き暮らせる街づくり

かじた やすかず  
可児とうのう病院 **梶田 泰一**

可児とうのう病院院長就任に際してご挨拶申し上げます。私は脳神経外科医として名古屋大学や名古屋医療センターで、パーキンソン病やてんかんの手術に明け暮れてまいりました。今回、病院運営が任せられますことは、私の中で新たなページをめくることとなります。タイトルが最初の章立てです。当地域も高齢化が進んでいます。命を大切にする医の倫理を守り、患者さんのQOLが少しでも向上するように、職員一丸となって質の高い医療や介護に努めます。



## アフターコロナを 団結して乗り越えよう

そのはた もとき  
佐賀中部病院 **園畑 素樹**

このたびJCHO佐賀中部病院の院長を拝命いたしました。大学院を含めると20年以上の大学勤務を経て昨年副院長として着任したばかりであり、大任に身が引き締まる思いです。病院を取り巻く環境は決して楽観できるものではありませんが、アフターコロナを職員一同一致団結して乗り越えていこうと思います。より良い医療の提供と健全な病院経営を目指して邁進していきますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。



## 温泉豊かな 湯布院病院

しん しゅうた  
湯布院病院 **針 秀太**

このたび院長を拝命いたしました地元出身の針秀太です。よろしくお願ひします。温泉観光地「湯布院」という自然豊かな環境のなか、当院は設立当初から、リハビリテーションを核とした医療を推進しています。特に天然温泉を利用した「温泉プール」による訓練は、県内外の方々に好評を得ています。スタッフは熱意や向上心を持って365日対応しており、当院の誇りです。今まで培ってきたノウハウを大切に、さらに発展させていきたいと思っています。



# 病院機能評価を受審して、 病院の質改善につなげよう！

病院機能評価は、業務改善を通して  
病院の経営や職員のモチベーションを根拠から支えるための、  
そして何より、  
良質な医療を患者さんに提供するための重要ツールです。  
JCHOの全病院が病院機能評価を受審することが  
戦略目標となりました。



## 病院機能評価とは？

ひょうかちゃん

病院機能評価とは、日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行う、病院の質改善活動を支援するツールです。総合入院体制加算、急性期充実体制加算等の施設基準となっているほか、地域医療支援病院については、良質な医療を提供するための取組をより一層高めていくためにも、第三者による評価を受けていることが望ましいとされています。

## JCHO本部では、チームJCHOとして 病院機能評価受審を応援するため、 助成制度を創設しました！

(令和5年度～令和9年度の時限的措置)

※令和6年度以降の助成対象、助成額等については各年度でお知らせする予定です！

### 令和5年度の助成制度についてご紹介

令和5年4月1日時点で  
病院機能評価の認定を  
受けている病院

#### アドバイザー病院への助成

- 助成額  
・1病院につき100万円。  
・年度内に複数の病院に対応等を行った場合は、追加で50万円。
- アドバイザー病院の要件  
JCHO病院からの病院機能評価に関する相談等について対応すること等
- 助成金申請メ切  
令和5年5月末日

令和5年度中に  
病院機能評価の  
申し込みを行った病院

#### 受審費用の助成

- 助成額  
令和5年3月31日以前(令和5年4月1日以降に受審を予定している場合に限る)または令和5年4月1日～令和6年3月31日の期間内に受審申し込みを行った場合に、1病院あたり100万円。
- 助成金申請メ切  
評価機構への受審申し込みの翌月末

令和5年度中に評価機構が  
提供している受審サポートの  
申し込みを行った病院※

#### 受審サポート費用の助成

- 助成額  
助成期間内で、1病院あたり合計25万円を上限として実費相当額を助成。
- 助成金申請メ切  
評価機構への受審サポート申し込みの翌月末
- ※本助成対象となる病院は、令和5年4月1日時点で病院機能評価の認定が有効期限外または受審経験がない病院に限る。

## 病院機能評価の受審は病院機能向上の絶好のチャンス

### ★福井勝山総合病院の体験談★

#### メリット

- ❖認定されたことで、地域や患者さんへのアピールになった。
- ❖第三者から評価を受けることによって自院の課題を再認識し医療の質改善に繋がった。
- ❖各部署や委員会等において、業務のマニュアル更新が進んだ。
- ❖認定に向けての活動を通して職員間の結束が強まった。
- ❖認定を受けたことによって、職員一人一人の自信に繋がった。
- ❖多職種間や部署間の連携と組織体制強化が図られた。

#### 苦労したこと

- ❖受審準備を進める中で、普段の業務に加えワーキンググループや委員会等に要する時間が必要で調整が難しかった。
- ❖業務の見直しやマニュアル整備等において、他病院からの情報共有があるとより助かる。
- ❖部署やワーキンググループ等の関係職員が決められたスケジュールどおりに準備を進めていくことが大変であった。
- ❖受審準備を進める中で、関係職員へ必要な情報を伝達させることが難しかった。



## コロナ禍、感染対策も万全に推進した【病院機能向上委員会】

JCHO福井勝山総合病院 院長 須藤 弘之

当院は2022年7月28、29日に病院機能評価の認定更新のため受審しました。新型コロナウイルス第7波のピークの時期と重なりましたが、職員一同一致団結し乗り越えることができました。

2021年10月に「病院機能評価受審対策委員会」を設置しました。コロナ禍で受審準備のための時間の調整がより一層困難な中、毎月委員会を開催し進捗状況を適宜細かく確認することで、スケジュール通りに概ね準備を進めることができました。同時に自院の課題も共有でき、職員間の結束も強まりました。受審当日の部署訪問の際は私も一緒に各部署を回り、サーベイヤーから病院としての本気度を高く評価して頂きました。認定後は各職員の自信や誇りにつながるとともに地域へのアピールにもなりました。

現在同委員会は「病院機能向上委員会」と名称変更し、継続的に病院の質改善に取り組んでおります。病院機能評価の受審は、病院機能向上の最善の方法であると強く感じます。



職員が働き続けられる職場づくり！その思いのもとに取り組んだ

優秀  
ポスター賞

# 『ストップ・ザ・離職』



東京山手メディカルセンター 看護部長 野村 仁美

この度は、優秀ポスター賞という栄えある賞をいただき、感謝申し上げます。

この取り組みは、コロナ禍において全国的にも深刻化している「看護職の離職」に着眼し、働き続けられる職場づくりを目指してスタートしました。優先すべきは現状把握ということで、「医療従事者の負担軽減・処遇改善検討委員会」協力のもと、東京都医療勤務環境改善支援センターのサポートを受けて、全職員にアンケート調査及びヒアリングを実施しました。

その結果、数々の課題発見がありましたが、解決の糸口となるのは『管理者教育』であると考え、まずは看護師長・副看護師長合同ワークショップ等を実施し、ビジョンの共有やスキルアップに努めました。そして勤務環境の改善に際し、①瞬発力があり短期的成果につながる外発的な動機付けに関すること②持続力があり仕事にコミットする内発的な動機付けに関すること、この両面について取り組みを行いました。結果として、離職率は8.5%（前年度比7.2%減）に低下しました。

今後も引き続き、職員が働き続けられる職場づくりを目指し、勤務環境の改善に努めていきたいと思います。そこでキーマンとなるのはやはり看護師長です。看護師長が元気でないと！ということで、ガッツポーズの写真を添付いたします。

この度は、誠にありがとうございました。

## 現状把握

### 東京都医療勤務環境改善支援センター事業に参加

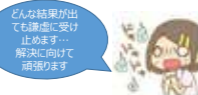
#### 【導入支援（現状分析・課題抽出支援）】

「何から取り組むべきかわからない」「職員の満足度（意識）から課題や魅力を把握したい」などの医療機関を対象に、職員アンケート調査及び管理者・職員へのヒアリング等から、課題及び魅力の抽出を行い、改善計画策定までを支援する

医療従事者負担軽減委員会・幹部会議の承認を得て取り組み開始（全職種対象）

- 職員アンケート：回答率**67.3%**（481名/715名）※対象は常勤・非常勤
  - ・外発的な動機付け：勤務時間と休息、休日・休暇、職員の健康支援、勤務環境の改善
  - ・内発的な動機付け：業務手順・ストレス軽減、気持ちの良い仕事の進め方、活躍できる職場の仕組み
  - ・これからの病院で働き続けたいと思っているか

- ヒアリング：**72名**（調査対象者の1割）  
職員1名に対しセンター職員3名で実施  
※当然プライバシーに配慮！



## こつこつ、こつこつ地道な取り組み

### 【外発的な動機付け】

- 労務管理（業務量把握と調整、超過勤務命令…ルールの明確化）
- 携帯ストップの色分け（日勤・夜勤）による超過勤務削減対策
- 業務改善（会議・看護記録等の効率化、入院セット（紙おむつセット）の導入等）
- 特殊勤務手当の拡充（救急外来）
- 『モノ』の整備
- リエゾンナースによるピア・サポート（コロナ病棟を中心に）

・瞬発力  
・短期的成果

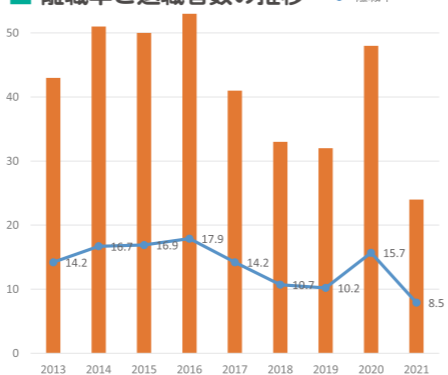
### 【内発的な動機付け】

- 固定チームニングの再構築（副看護師長会）
- RRS(Rapid Response System)の発足（CCOT）
- 朝ミーティングの実施（管理者間のタイムリーな情報共有、リリーフ体制の整備等）
- 病棟運用ルールの策定（稼働率↓病棟の活用）
- キャリアラダーの見直し ■院外研修・学会参加の推進
- 院内留学（個人のキャリアアップ・病棟人員の確保…手術室→病棟へ2名）
- リリーフ体制の整備 ■必要度Ⅱへの移行 ■業績評価フィードバックの強化
- 看護師長会議事録運用の見直し（正しい情報・タイムリーな伝達）
- 看護部委員会体制の見直し（ムダの排除、連携の強化）

・持続力  
・仕事にコミット

## 取り組みの成果

### 離職率と退職者数の推移



### 2021年度 常勤看護職員 離職率

**8.5%**  
(前年度比  
7.2%減)

### 2021年度 退職理由



今後の課題  
東京山手MCでやりたい看護が見つかるといいな...

### 院長コメント

2020年度の看護師の離職率は、コロナ禍で2019年度の1.5倍に激増しました。2021年度は全看護師長・副看護師長が一丸となって看護師のモチベーションを上げるべく様々な取り組みをし、過去最低の離職率を達成することができました。感謝致します。

院長 矢野 哲



園畑 院長  
(佐賀中部病院)

渡邊 院長  
(東京蒲田医療センター)

川田 院長  
(横浜中央病院)

岡住 院長  
(千葉病院)

梶田 院長  
(可児とうのう病院)

小池 院長  
(札幌北辰病院)

針 院長  
(湯布院病院)

新たに7人の院長が就任しました！

# 令和5年度新任院長研修を開催

開催日時：令和5年4月19日（水） 開催形態：集合研修（地域医療機能推進機構本部 研修棟3階会議室）



新しい院長が何をやっていこうとしているのかを、病院がどこに向かおうとしているのかを職員にわかっていただくことが重要

## 受講された院長先生の感想

病院運営には長期的なビジョンが必要であることを改めて再認識しました。また、本部の先生方が親身に疑問に答えてくださったのが、一番の収穫でした。JCHOグループの一員であることを実感でき、院長であることの孤独感が少し癒されました(笑)。

山本理事長からJCHO全体の方針を直接伺うことができたのは貴重な体験でした。

院長に求められる認識、職務、培うべき人間力を学びました。

他者への思いやりそして嫌われる勇氣について伺い、目の覚める思いでした。

コミュニケーションの重要性から記者会見の方法まで、あらゆることを具体的に示して頂き大変参考になりました。

厚生課では今後の研修について「教育のJCHO」を実現すべく、特に既存研修について現状のニーズ等に合致しているかなど、研修委員会を通じ検証し、必要に応じてスクラップ&ビルドを含めた見直しを行うことにより、研修の充実を図るよう検討してまいります。



# 熊本総合病院は北館を竣工いたしました

—病める者は私のもとに来なさい—

JCHO熊本総合病院 病院長 島田 信也

当院は、本年2月末に北館を竣工しました。

手狭であった該当部署(外来部門・健康管理センター・内視鏡センター・人工透析センター・手術センター・当直室・倉庫・大ホールなど)の拡張目的で、本部から「本館と一体となる北館増築計画」の許可を得ることができました。誠に有難うございます。

そして、3月25日に山本理事長を始めとする各界のVIPの皆様のご臨席の下、盛大な「北館竣工パーティー」を開催いたしました。

竣工記念のモニュメントとして「アスクレピオスの噴水」を北館玄関前に設置いたしました。

「アスクレピオス」はギリシャ神話における医療の神様です。

その医術の技は、死者をも蘇らせたといわれています。

地上での医術の功績が認められ、死後は「へびつかい座」として天に祭られました。杖に蛇の巻き付いた「アスクレピオスの杖(蛇杖)」は、医療・医術のシンボルとして世界的に用いられています。



▲「アスクレピオスの噴水」の除幕式



▲大ホール

この度、関ヶ原のアーチストが、2m立方体の大理石に鑿の一刀彫で息を吹き込み、アスクレピオスは、へびつかい座からこの熊本総合病院に降臨しました。その時の言葉が「病める者は私のもとに来なさい」です。

「アスクレピオスの前に跪く病める者」の第一号は、取りも直さず私自身、

- ①「天に則り私を去る努力」を怠ってはいないか、
- ②皆様に対する「思いやりの心」を磨いているか、
- ③「公のために貢献」しているか、など、自分自身も病める心を神に清めて頂きました。

今後とも、私共の熊本総合病院は、全職員が一丸となって、「医療のみならず『まちづくり』にも貢献する」ことを念頭におき、さらに精進して参ります。

▼内視鏡センター



北館竣工パーティー

2023.3.25



## 災害拠点病院 「航空機離発着訓練」

JCHO南海医療センター 地域医療連携室 医療社会事業専門員 秋山 義輝

JCHO南海医療センターは、災害拠点病院です。関係機関とより一層の連携強化を図りながら、有事の際には地域の中心となり、その使命を全うできるよう職員一同精進しております。

当院が所在する佐伯市は、大分県南に位置する海と山に囲まれた自然豊かな市です。

数年前に佐伯市からヘリポートが無くなり、2017年の新築工事の際に病院屋上にヘリポートを設置しました。ドクターヘリや防災ヘリでの患者搬送・受入、他医療機関の患者様のヘリ転院搬送、現場の救急隊が要請したドクターヘリとのドッキング地点として、機能を果たしております。

今回、当院ヘリポートが、海上保安庁の航空機「はまちどり」における重量の耐用判断を認められ、海上保安庁の航空機離発着場所として当院にお声掛けをいただきました。

そこで、運行開始するにあたり、2023年1月31日(火)に、佐伯海上保安署等と合同で当院ヘリポートを使用した患者搬送訓練を行いました。

本訓練は、災害発生時を含めた洋上で救助した傷病者等を、当院ヘリポートを使用して直接搬送する方法等を確認し、病院関係者及び佐伯海上保安署等関係者間における連絡体制の構築、連携深化することを目的に行われました。

病院に設置されたヘリポートを使った訓練は、大分県内では初めての取り組みとなりました。

ヘリコプター(はまちどり)の機体は非常に大きく、機体が建物に近づくに連れ、音と風圧には圧倒されました。訓練後にフライトスタッフとの意見交換も行い、非常に貴重な経験ができました。

佐伯海上保安署 玉野晃署長(当時)、南海医療センター 森本章生院長、武内裕統括診療部長(写真右から)



本部

〒108-8583 東京都港区高輪 3-22-12 ☎ 03-5791-8220  
https://www.jcho.go.jp

JCHO 研修センター

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-5-10 ☎ 03-6685-3680

北海道東北地区事務所

〒981-3281 宮城県仙台市泉区紫山 2-1-1 ☎ 022-378-8801

関東地区事務所

〒108-0074 東京都港区高輪 3-22-12 ☎ 03-3445-0800

東海北陸地区事務所

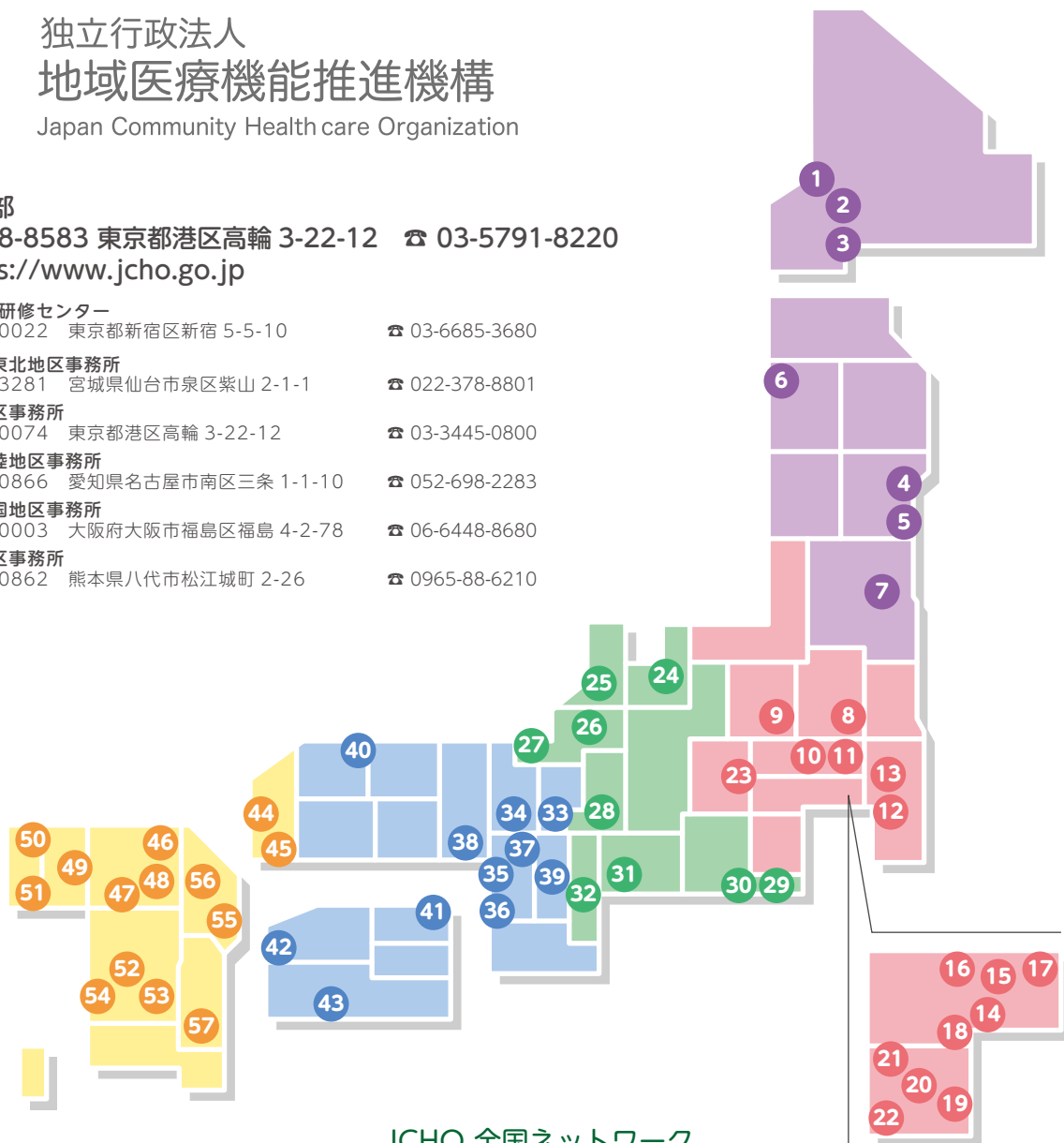
〒457-0866 愛知県名古屋市南区三条 1-1-10 ☎ 052-698-2283

近畿四国地区事務所

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島 4-2-78 ☎ 06-6448-8680

九州地区事務所

〒866-0862 熊本県八代市松江城町 2-26 ☎ 0965-88-6210



JCHO 全国ネットワーク

九州地区

- 44 下関医療センター
- 45 徳山中央病院
- 46 九州病院
- 47 久留米総合病院
- 48 福岡ゆたか中央病院
- 49 佐賀中部病院
- 50 松浦中央病院
- 51 諫早総合病院
- 52 熊本総合病院
- 53 人吉医療センター
- 54 天草中央総合病院
- 55 南海医療センター
- 56 湯布院病院
- 57 宮崎江南病院

東海北陸地区

- 24 高岡ふしき病院
- 25 金沢病院
- 26 福井勝山総合病院
- 27 若狭高浜病院
- 28 可児とうのう病院
- 29 桜が丘病院
- 30 三島総合病院
- 31 中京病院
- 32 四日市羽津医療センター

近畿四国地区

- 33 滋賀病院
- 34 京都鞍馬口医療センター
- 35 大阪病院
- 36 大阪みなと中央病院
- 37 星ヶ丘医療センター
- 38 神戸中央病院
- 39 大和郡山病院
- 40 玉造病院
- 41 りつりん病院
- 42 宇和島病院
- 43 高知西病院

関東地区

- 8 うつのみや病院
- 9 群馬中央病院
- 10 さいたま北部医療センター
- 11 埼玉メディカルセンター
- 12 千葉病院
- 13 船橋中央病院
- 14 東京高輪病院
- 15 東京新宿メディカルセンター
- 16 東京山手メディカルセンター
- 17 東京城東病院
- 18 東京蒲田医療センター
- 19 横浜中央病院
- 20 横浜保土ヶ谷中央病院
- 21 相模野病院
- 22 湯河原病院
- 23 山梨病院

北海道東北地区

- 1 北海道病院
- 2 札幌北辰病院
- 3 登別病院
- 4 仙台病院
- 5 仙台南病院
- 6 秋田病院
- 7 二本松病院

